

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201471		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム城北 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡市葵区池ヶ谷6-20 (電話)054-249-1188		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyu_ou_detail_2016_022_kani=true&ligvsvocd=2274201471-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はお客様一人一人に寄り添い、安心・安全にケアを行っている。性格が明るく親しみやすい職員が多く、お客様のご家族様が来所した際にも、気軽に会話が出来る。民生委員の方や相談員の方も定期的に訪問され、お客様とお話をして下さっている。提携医は24時間対応可能で、健康管理に関してお客様やご家族様も安心して下さっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡市を中心に県内に50事業所余を擁する法人のスケールメリットから自己査定報告書をはじめ意見収集の制度が豊富ななか、「外出やレクリエーションを充実させたい」と入浴と活動日が増えた例も増え、1日の流れを変えるほど職員に進言がみられます。12月でいうと「クリスマス会、野菜収穫、年賀状づくり、蕎麦打ち、園児交流」と行事が年中多彩で、1日おきに設けられた活動日に因って活気ある毎日が実現しています。9名中介護度が5の利用者が1名、他は1または2ですが、ADLの格差が寂しさや疎外感を生まないよう、職員の温かみある寄り添いがあることを視認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	チーム会議などで、再確認や会話の中に取り入れている。 スタッフが目にしやすい場に掲げている。	朝礼で唱和して毎日1回は言葉にするほか、毎月のチーム会議でも確認し合っています。優しい声かけやアイコンタクトのある会話等利用者に関わる様子から、理念の実践があることを管理者は感じています。	実践、達成を客観的に測れるとなお良いと思います。例. 理念に基づく月間目標の設定
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	センター内のコンサートやふれあい祭りの際には、地元の方に出展を依頼したり、お呼びして交流に努めている。	小学校のふれあい祭りははじめ行事にはよく出掛けています。数年続いた園児慰問は本年事業所側が訪問するという形で実り、現在「手土産に」とチューリップをプランターで育てていて、来月の再会が待たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月二十日に老人会への参加(白寿会)をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際を報告し、そこでの意見をサービスに取り入れている。又、お客様や職員(担当以外の)の出席もできるよう努めている。	家族の参加が少ないことを懸念としていますが、民生委員、地区社協から地域情報をふんだんに得ることができ、隔月開催でおこなう会議の雰囲気は和気藹々としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と必要に応じて連絡を取り合っており、サービス内容の確認をしたり、アドバイスを頂いている。	運営推進会議は夕方からであるにもかかわらず、地域包括支援センター職員は毎回ほぼ出席くださっています。介護相談員制度も利用しており、毎月一人ひとりの利用者に寄り添ってもらえ、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で身体拘束となる具体的な行為について学んでいる。	現状身体拘束が必要な状態の人はいませんが、職員は一時性、代替性、切迫性の書面を理解しています。また法人から面談者が派遣され、普段気軽に言えないことを発言する機会もあり、休憩も各自しっかりとって、ストレスを溜めない労働環境をつくっています。	ユニットの出入り口施錠を当たり前のものと認識しないよう、定期的に振り返る時間をつくることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、常に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間を取り、本人や家族の様子について聞き取りをすると共に、契約の内容について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、文書・口頭での説明を行い、家族との情報交換の際にも口頭で伝えている。	年2回家族会があり、本年は医療連携加算実施に係る緊急招集もおこなっています。顔写真入りの職員紹介も入り、行事を中心に暮らし向きがよく分かる「若草の家 城北通信」もNo.が134となり、関係を深めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、月に一度のチーム会議等で職員から意見や提案を聞き、運営に反映させている。又、自己査定報告書でも、意見を聞く欄を設けている。	自己査定報告書をはじめ意見収集の制度が豊富ななか、「外出やレクリエーションを充実させたい」との考えを以て入浴と活動日が1日おきとなった例もあり、1日の流れを変えるほどの進言がみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善提案書を提出してもらい、意見を検討、反映している。職員の介護技術に応じた社内資格制度を整備し、また、資格取得のための研修を実地している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、教育トレーナーによる介護技術の勉強会を実施し全員参加している。段階に合わせた社内外の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講や、事業所連絡会へ出席し他事業所との交流・意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用当初は出来る限り、近くに寄り添いながら対話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	報告書、または家族の来所時に直接話をして、今後のケアに役立てたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様の状態を把握し、状況に応じて他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者の思いや苦勞を理解、共感すると共に、個々の生活歴を日々の語らいや家族との会話の中から拾い上げ、ケアへと結び付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告書などを用いて、毎月ご家族と情報交換を行い、情報を共有し、一人ひとりのケアに反映させている。家族会等にて、意見交換もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もともと生活していた地域にある施設であり、近隣等の友人が歓談しに訪問している。	正月には自宅に戻って泊ったり、また月2回程度の頻度で家族と外食する人もいます。「これでなければと…」愛用化粧品を使い続ける人、また学校で音楽を教えていた人は歌唱レクでは中心となり活躍しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性を把握し、レクリエーションなど職員が入り、コミュニケーションが取りやすい様に配慮している。 スタッフが間に入り会話を盛り上げる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等へ招待している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、常に近い存在として寄り添いながら対話している。	特段思いや意向把握に注視しての取組みはありませんが、例えば「12月はクリスマス会、野菜収穫、年賀状づくり、蕎麦打ち、園児交流」と行事が多彩で、1日おきに活動日が設けられ活気ある毎日が実現しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を日々の語らいや家族との会話から拾い上げ、スタッフ間で共有し、ケアへと結び付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を的確に把握し、申し送りやチーム会議により現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、チーム会議を行い、ケアカンファレンスの中で意見やアイデアを出し、介護計画に反映させている。	介護支援専門員資格をもつ計画作成担当者が、カンファレンスや職員が毎日記録するチェック表を通じて介護計画書を作成しています。担当者会議も家族を交えており、時には自宅で開催という熱心さに感心します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、チーム会議を行い、ケアカンファレンスの中で介護計画を見直し、必要に応じて新たな計画を作成するよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランの内容以外にも、お客様の希望に対して、一番良い方法で対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の民生委員が運営推進会議に出席している。また、消防署の職員に来て頂き、消防訓練を実施したり、小学生や中学生の福祉体験学習の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診が定期的に行われているため、ご家族様にも理解して頂き好評であり、協力体制は構築されている。	月2回訪問診療のある協力医に9名中7名が変更し、2名は従来のかかりつけ医に家族が受診介助をおこなっています。本年から訪問看護事業所と提携して医療連携加算を取得しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様に変化があれば、訪問看護へ通達、健康チェック、主治医との対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医、訪問看護、ご家族と連絡を取り、日々の状況を報告し、職員にも日々対応を指示している。	協力医も快諾くださり、看取りをおこなう事業所として職員も承知しており、受入態勢は整っています。本年度も1名お見送りし、たとえ不安に思う職員がいたとしても、法人本部の教育チームに依頼するとエンゼルケア講習を開いてもらえるスケールメリットがあります。	リスクマネジメントも鑑み、緊急時対応の合意書を家族と交わしておくとなお良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	チーム会議の中で研修を行なう。社外の救命、救急の研修への参加に努めている。マニュアルを作成し、見える所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施。全社員の参加。災害用ペットボトル水の保管。マニュアルを作成し、見える所に掲示。	備蓄は法人で定めているのは3日分ですがローリングストックを含めると5日分あります。本年は通報・消火器訓練を中心に取組んでいます。毛布等を使った搬送は身につくまでに至っておらず、課題と考えています。	気がかりな訓練メニューは会議など職員が集まる時間を活用して、細目に繰り返すことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症研修等を行い、常に人格を尊重して、言葉掛けや行動のプライバシーの確保に努めている。	隔月のマナー研修で省みていて、職員の言動にも丁寧さが滲んでいます。名字で呼ぶ人、名前と呼ぶ人様々で、事前に確認はとっておらず自然な流れに任せていますが「～ちゃん」づけはNGとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが伝わるまで傾聴したり、本人の意思確認をできる範囲まで広げてコミュニケーションをとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様一人一人のペースを理解しながら、介護している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に何度か理美容を利用できる日を設定し、希望により対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と共に席につき、食事が楽しく取れるようにしている。	「(仕様書が)辛めの味付けだったんだけどね、それじゃあ嫌がるかなと思って甘目にしたんだよ」と、優しい声で男性職員が話しかけていてゆったりとした空気が流れる食事風景で、十分な寄り添いがみられます。	食材費と食糧費について改めて見直し、方向性や配分が確かかどうか確認することを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いての摂取量のチェックを行っている。時間ごとに水分を提供している。身体状況に合わせた食事形態もすぐに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところは自分でやって頂き、できない所のみ介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いた定期的なトイレ誘導を行い、失敗の不快感を減らし、残存能力の活用に向けて努めている。	状態が悪くなくても布パンツからいきなりリハビリにしたりせず、パットで様子を見て、家族の経済的負担にも配慮しています。定時で声かけをしたところ、失敗がなくなり尿意が戻った例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と多めの水分補給を促している。又、往診医やご家族との意見交換も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め、一人一人に合わせた入浴を実施している。	浴槽をまたぐのが難しくなるなど重度になるとシャワーチェアとし、無理はことはしていません。シャンプー、ボディソープは共用で、湯は循環で浴剤使用はありません。	脱衣スペースが雑然としているため、棚の導入などは正を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、宿泊の際は、日頃のパターンに合わせた就寝時間に行っている。日中は、希望があればベッドにて、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の表を入れている 変更時は申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様一人一人が生活の中で役割が自然と出来上がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は希望に応じて散歩やドライブに出掛けている。	1日おきに何がしかの活動がおこなわれ、散歩を含み近所への買い物外出も頻回です。白寿会(老人会)の集いには日常的に出向き、年間を通して初詣、桜・向日葵・秋桜の花見、ブドウ狩り、イルミネーションの外出企画がおこなわれています。	畳スペースに不用品を長く置かないよう、破棄する手続きの見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が金銭管理を行い、本人の希望があれば使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望、又はセンター内に電話があり、取次の希望があれば支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間は、家庭的な設備や物品として、清潔で明るく、お客様に染みやすい空間になっている。	時計が目線の高さに合わせて設置されていることが目を惹きます。風が強くて外気浴には不向きですが、ベランダにはチューリップの芽が育っていて、慈しんでいることを伝わりませす。	洗面台の上に何かと置く習慣を改善することを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、皆の声を聞きながら、お客様が一人になったり、お客様同士で話が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の部屋という感じが持てるようにし、安全で落ち着いた環境作りをしている。	介護用ベッドとクローゼットが予め配され、大きな持ち込みをする人はいません。プラスチック製の整理タンスの上に小物を置いたりしている居室もありますが、ほとんどがクローゼットの中に収納されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりを取り付け、お客様一人ひとりの安全を確保している。トイレの場所などわかるよう廊下の床を色分けしている。戸も小窓を付けたりして、分かり易い特徴を出している。		